

A-LAB Exhibition Vol.44
白髪一雄生誕100年
記念事業 関連企画展

大上巧真 | blueprint | 2024 Photo: Kanyou Gu

常行三昧

橋井 隆 | センズの機 | 2024
Jogyo Zanmai

橋井 隆 | センズの機 | 2024

2024年7月20日(土)～9月23日(月・休)

午前10時～午後6時
火曜日休館
入場無料

高田マル | この形、ダリア、ダリア、ダリア | 2024 Photo: Yuki Maruya

A
LAB

会 期	2024 年 7 月 20 日 (土)～9 月 23 日 (月・休)
開 館 時 間	午前 10 時～午後 6 時
会 場	A-LAB (えーらぼ) 尼崎市西長洲町 2-33-1
休 館 日	火曜日
入 場 料	無料
主 催	尼崎市

開催要旨

尼崎で抽象絵画を描き続けた白髪一雄（しらが かずお 1924–2008）の生誕 100 年を記念して、A-LAB では関連企画として「常行三昧 Jogyo Zanmai」を開催します。

「常行三昧」は比叡山で行われる修行の一つで、念仏をとなえながら本尊阿弥陀仏のまわりを歩き続けるというものです。天井からつり下げられたロープや柱の間の横木につかまって休むことはできますが、修行中は決して座ったり横になったりすることはできません。比叡山延暦寺で修行した白髪は、その時の様子をよく周囲に語っていたそうです。

本展では、この「常行三昧」になぞらえ、櫻井類、高田マル、大上巧真の 3 名が「絵」とは何かを問いながら実験的な絵画を制作し続けます。それぞれのやり方で、行為または出来事としての絵画を探究してきたアーティストたちは、ここ尼崎でどのような「絵」を見出すのでしょうか。会期中に変化していく展示を、ぜひお楽しみください。

関連イベント

アーティスト・イン・ラボ

出展作家が会場で作品制作を行います。

7 月 20 日（土）午後 1 時～6 時

会期中の他の制作日は HP 等でお知らせします。

白髪一雄生誕 100 年 記念事業について

抽象画家・白髪一雄は、床に広げたキャンバスの上に絵具の塊を置き、天井から吊るしたロープにつかまり、それを素足で画面全体に展開させて描きました。全身の力を込めて描かれた迫力のある作品は観る人に強烈な印象を与え、世界的に高く評価されています。

白髪は生まれ育った尼崎に強い愛着を持ち、83 歳で亡くなるまで当地に暮らし、制作しました。生誕 100 年を迎える今年、生誕の地・尼崎においてその足跡をたどります。

記念展をはじめ、様々な関連事業を通して、現代のアーティストたちにも影響を与えつづけるその作品の魅力を多面的に検証します。

広 報 用 画 像

このプレスリリースに掲載されている画像データ(※ 8 ～ 11 ページ参照)をプレス掲載用にご用意しております。 下記の使用条件をご了承の上、A-LAB までお申し込みください。

使用条件：

- ・ 広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
- ・ トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
- ・ アーカイブのため、後日掲載紙、URL などをお送りください。

以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

A-LAB（午前 10 時～午後 6 時 * 火曜日休館）

担当：八木、田野、重光

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課（平日：午前 8 時 45 分～午後 5 時 30 分）

担当：山城、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

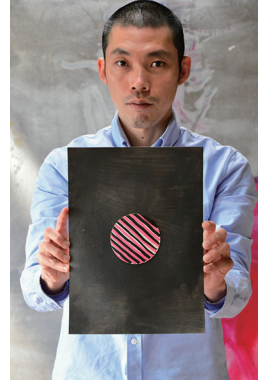
作家略歴

■櫻井 類（さくらい るい）

1981 年 生まれ

2011 年 京都造形芸術大学（現：京都芸術大学）大学院博士後期課程 修了

抽象的な絵、ときどき相貌や生物などのかたちを描く。またライブペインティングやパフォーマンスも行。今・ここ・在ること、を作品／表現として示し、そこから時間や空間が延びてゆくようなアート（おこない）を目指す。



【主な個展】

- 2011 年「透明と停止」、CAP STUDIO Y3、兵庫
- 2013 年「ALL NIGHT HAPS/ 非線形 Non-Linear」、HAPS、京都
- 2016 年「どこから遠くなのだろう」、galerie16、京都
- 2016 年「半透明の鏡が立っている、遠いと近いの境」、ギャラリー島田、兵庫
- 2017 年「何も映さない鏡に浮かぶ」、galerie16、京都
- 2017 年「眩しい遊び」、ギャラリー島田、兵庫
- 2017 年「氷塊も瓦解も O.K.」、Painting Laboratory 303、京都
- 2018 年「つぶら / 不思議なそのとおり」、galerie16、京都
- 2019 年「惑星の肉体的な魅力」、ギャラリー島田、兵庫
- 2019 年「日を浴びる裸体」、岐阜現代美術館、岐阜
- 2019 年「靄の中の靄」、galerie16、京都
- 2020 年「雨音を聞くのすけ」、galerie16、京都
- 2021 年「明るみ / めかるみ（再）」、galerie16、京都
- 2021 年「時が撫でる頬」、ギャラリー島田、兵庫
- 2023 年「姿を放す」、ギャラリー島田、兵庫
- 2023 年「今から今へ、ここからここへ」、galerie16、京都
- 2023 年「もりもり相貌」、GALLERY04 街区、大阪
- 2024 年「連れゆくものが叫ぶ」、GALLERY04 街区、大阪
- 2024 年「まばゆいシャウト、それも在り方」、galerie16、京都

【主なグループ展】

- 2011 年「EMERGING2011」、3331Arts Chiyoda、東京
- 2012 年「Art Court Frontier#10」、ARTCOURT Gallery、大阪
- 2012 年「DRAWING LESSONS」、Galerie Aube、京都
- 2013 年「透明な奥のほう」、GALLERY wks、大阪 / CAP STUDIO Y3、兵庫
- 2014 年「What's Next?」、ART ZONE、京都
- 2014 年「KUAD graduates under 30 selected」Galerie Aube、京都
- 2014 年「雲の建物」、CAP CLUB Q2、兵庫
- 2018 年「泥と光」、784junction Cafe
- 2018 年「Kunstgalleriet」、オーデンセ、デンマーク
- 2019 年「HERE WE ARE」、kanzan gallery、東京
- 2019 年「プレゼンス vol.2」GALLERY niw、東京
- 2020 年「歳末ルンルン」ギャラリーサイハテ、兵庫
- 2020 年「六甲ミーツ・アート」、六甲イカスヴィラ、兵庫

作家略歴

2020 年「ATC アート大賞展」、アートコンプレックス・センター、東京
 2021 年「語る抽象絵画展 vol.11」、アートコンプレックス・センター、東京
 2021 年「六甲ミーツ・アート」、六甲山、兵庫（「六甲 CHANG PONG」に参加）
 2022 年「言葉のアート展 Forest of Words」、阪神梅田本展ハローカルチャー、大阪
 2022 年「ゆらゆらゆれる記憶と痕跡」、瑞雲庵、京都
 2023 年「櫻井類とオマルトヴェンザーの組体操」、バイソンギャラリー、兵庫

【アーティストインレジデンス】

2016 年「Videokaffe」、トゥルク、フィンランド（C.A.P.see saw seeds プロジェクト）
 2018 年「Raus Stonewere Foctry（Yoshio Nakajima Arthall）」、ヘルシンボリ、スウェーデン

【アートフェア】

2018 年「AFFODABLE ART FAIR」、ストックホルム、スウェーデン

【ダンス・パフォーマンス】

2017～2020 年「ダンス絵日記」（ダンス / 文山絵真、絵 / 櫻井類）
 2022 年～「アート筋トレ」（パフォーマンス・ライブペインティング / 櫻井類、サウンド / なかむらゆきこ）
 2023 年「六甲ミーツアート芸術散歩 2023 beyond、六甲山芸術劇場（アート筋トレとして出演）

【参加作品】

2016 年「モダンバレエ展」、久留米シティプラザ ザ・グランドホール、福岡
 （平田みのりバレエ&モダンダンススタジオの作品に参加。）
 2022 年「2022 空 そこはかとなく刻々に」、アンサンブル・ZONE ダンス公演、KIITOホール、兵庫
 2023 年 AAP アシヤアートプロジェクト「GUTAI というなにか」第二部「『GUTAI が試みた舞台空間』へのオマージュ作品『大きな大きな広がりななかへ』試演会」、アンサンブル・ZONE、芦屋市民会館大ホール（ルナ・ホール）、兵庫

作家略歴

■高田 マル（たかだ まる）

1987 年 生まれ 神奈川県出身
 2009 年 日本女子大学文学部史学科宗教学専攻 卒業
 2013 年～2015 年 美学校にて複数の講座を受講
 2016 年～ 展示・対話企画「絵画検討会」主催
 2020 年 1 人出版社「絵画検討社」発足
 2024 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻 修了



撮影：間庭裕基

人間はなぜ、いまだに絵を描くのか。絵をめぐる人間の原初的な衝動や欲求を探るうえで、「絵画」を物質的なひとつの形式ではなく人と人のあいだで起こる出来事として捉え、ごく個人的な描写と記述、公の場におけるそれらの伝達と誤読のなかで何が起きているのか実践を通して考え、絵を描く行為の私的に付き合い続けている。

【主な個展】

2016 年 「船と人」、HIGURE17-15cas、東京
 2022 年 「知らない言葉で なんども祈る 複製が」、NADiff window gallery、東京
 2022 年 「祈りの言葉は今日も同じかたちをしている」、soko station146、東京
 2023 年 「向かって行く線、朝の挨拶」、JITSUZAISEI、大阪
 2024 年 「この花、ダリア、ダリア、ダリア、」、NADiff window gallery、東京

【主催企画】

2016 年 「絵画検討会 2016」、TURNER GALLERY、東京
 2018 年 「絵画検討会 2018」、東京、新潟、福岡の5箇所で展示を同時開催

【出版】

2020 年 編著『21 世紀の画家、遺言の初期衝動 絵画検討会 2018』、絵画検討社
 2022 年 編著『忘れられない絵の話 絵画検討会 2020-2021』、絵画検討社
 2024 年 編著『祈りの言葉は向かって行く線、今日も同じかたちをしている朝の挨拶』、絵画検討社

【受賞歴】

2015 年 第 13 回グラフィック1WALL 審査員奨励賞（佐藤晃一選）
 2022 年 第 27 回日本藝術文化財団奨学生
 2024 年 アートアワードトーキョー丸の内 2024 グランプリ

作家略歴

■大上 巧真（おおうえ たくま）

2000 年 生まれ 大阪府出身
2023 年 京都芸術大学 美術工芸学科 卒業
2024 年 京都芸術大学大学院 在籍



可変的な人体を目指すことで、世界との対峙方法を変えられるかの試みをしている。
自身の物理的な身体や縄張り、そしてそれらの動きの痕跡などを手がかりに物語を始める。

【主なグループ展】

2021 年 「ワームホールでエキゾチック困い」、alternative space yuge、京都
2021 年 「RENACER」、神戸元町歩歩琳堂画廊、兵庫
2021 年 「SEPT」、荒川河川敷、東京
2021 年 「on the river」、多摩川河川敷、東京
2023 年 「ウサギ・ハチドリ・ホームクルス～新しい地平の作り方～」MEDIA SHOP gallery、京都
2024 年 「ARTISTS' FAIR KYOTO 2024」、京都国立博物館、京都
2024 年 「東 京都 展 The Echoes of East Kyoto」、WHAT CAFE、東京

参考図版



1



2



3



4



5



6

参考図版



7



8



9



10

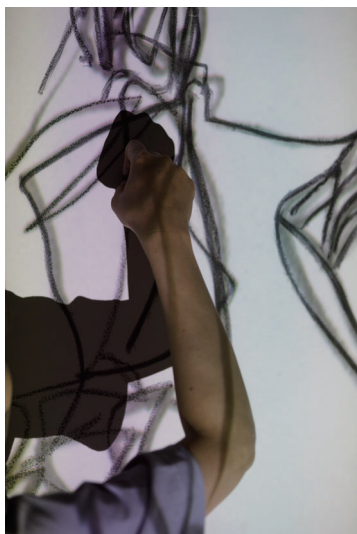


11



12

参考図版



13



14



15



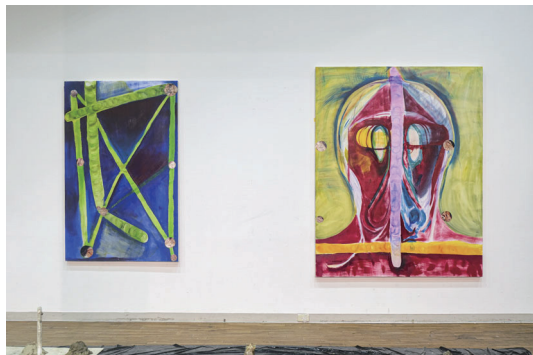
16



17



18



19



20



21

1. 櫻井類 | 『リアリズム』表 | 2024
2. 櫻井類 | 『リアリズム』裏 | 2024
- 3-4. 櫻井類 | 『センスの塊』 | 2024
5. 櫻井類 | 『進行形コラボレーション展覧会 櫻井類とオマルトヴェンザーの組体操 制作風景』 | 2024
6. 櫻井類 | 『六甲ミーツアート 2023 beyond 六甲山芸術劇場 「アート筋トレ」 パフォーマンス風景』 | 2024
- 7-8. 高田マル | 『向かって行く線、朝の挨拶』 | 2024 撮影：大竹央祐
- 9-11. 高田マル | 『この花、ダリア、ダリア、ダリア、』 | 2024 撮影：間庭裕基
- 12-14. 高田マル | 『向かって行く線、朝の挨拶』 | 2023 撮影：間庭裕基
15. 高田マル | 『今日、石を描いた』 | 2023 撮影：間庭裕基
16. 大上巧真 | 『rub areas』 | 2023 撮影：高橋順平
17. 大上巧真 | 『rub area』 | 2023 撮影：高橋順平
- 18-19. 大上巧真 | 『blueprint』 | 2023 撮影：Ryusei Okada
- 20-21. 大上巧真 | 『blueprint』 | 2024 撮影：kenryou Gu

次回展

ひきだ
「家具と抽出し Furniture and drawer」

会期：2024 年 10 月 19 日(土)～12 月 15 日(日)

概要

ゲストキュレーターに松井沙都子、コラボレーターに松延総司を迎え、「家具」と「抽象」をキーワードに制作した新作を展示し、私たちにとって身近な家具とアートの新たな関係を引き出します。

出展作家

■ 松井沙都子 Satoko Matsui

2004 年 京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻 卒業

2006 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画 修了

2017 年 博士（美術）（京都市立芸術大学）

【主な個展】

2018 年 「モデルハウス」、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都

2019 年 「ホーム・スイート・ホーム」、MEDIA SHOP gallery2、京都 他多数

【主なグループ展】

2021 年 セイアンアーツアテンション 14 「Re:Home」、成安造形大学、滋賀

2022 年 「連続するプロジェクト / インスタレーションを所有する」、BnA Alter Museum SCG、京都

2023 年 「ミニマル美術」VvK36 岡本光博キュレーション、KUNST ARZT、京都

2023 年 「zu Hause 自宅と承認」、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)ギャラリーC、兵庫 他多数

■ 松延総司 Soshi Matsunobe

2008 年 京都嵯峨芸術大学短期大学部（現：嵯峨美術短期大学）卒業

2023 年 ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修

【主な個展】

2022 年 「雪の上にのびる道」、札幌文化芸術交流センター、北海道

2024 年 「Spaces around dining tables」、Les Chambres、パリ 他多数

【主なグループ展】

2021 年 「Soft Territory」、滋賀県立美術館、滋賀

2022 年 「石と植物」、滋賀県立美術館、滋賀

2024 年 「VOCA 展 2024 現代美術の展望」、上野の森美術館、東京

2024 年 「not a house」、MBL Architectes、パリ 他多数